

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2024年1月15日

今月のトピックス 「新札切り替えでプチバブル発生か？」

新年、明けましておめでとうございます。今年も先取り経済 NEWS では皆さんのお役にたてるように既存の報道などとは異なる視点で経済やマーケットなどを解説していけるように頑張りたいと思います！

2024年の第1回目は今年の見通しを述べたいところですが、さまざまなメディアで見通しが報道されているので簡単に触れます。今年は世界が選挙イヤーで、中でも大イベントは米国の大統領選挙です。11月の米国大統領選に向けてさまざまな駆け引きが予測されるため、マーケットは振幅(ボラティリティ)の大きい1年になると考えています。国内ではポスト岸田として誰が総理の椅子に座るかが鍵で、財務省の息がかかった総理の就任だと2025年以降は財政再建を御旗に増税メニューのオンパレードになるかもしれません。2024年、筆者が最も注目しているのは7月の新札切り替えです。なぜなら新札切り替えでプチバブルが発生するかもしれないからです。新札の切り替えは約20年に1度の割合で行われていますが、表向きは彫金師の育成&技術の伝承、あるいは偽造防止などにあるようですが、斜に構える筆者はアングラマネーなど表に出すことが難しいお金(タンス預金を含む)をあぶり出すことにあるのではないかと考えています。

過去(筆者の認識がある)最も多額のアングラマネーが表に出てきたのは1988年ではないかと思われます。1988年に何があったかと言えば「少額貯蓄非課税制度」、通称「マル優」が廃止されたのです。正確には65歳以上の高齢者等しか同制度の対象にならなくなったのです。その4年前、1984年に新札の切り替えがあり1万円は福沢諭吉、5千円は新渡戸稲造、千円が夏目漱石に変わり、かつお札のサイズが小さくなりました。日本の場合、新札の切り替えがあっても旧札がそのまま使用できることからバブルは起きにくいのですが、その4年後にマル優が廃止されたことからバブル経済に勢いが付いたとも言われています。当時、銀行のシステムなどは現在と比べられないほど脆弱といわれ、中でも郵便局は1人1口座しか開設できず、また貯金額も300万円に制限されていたものの、なぜか郵便局には4億前後の口座が開設されていたのです。全てとはいえませんが、表に出しにくいお金が偽名、ペットの名前などで大量に郵便局に口座開設されていたようです。ちなみにマル優は利息に対する税金が非課税、かつ当時の貯金金利は数%あったのですから、仮に300万円でも数万円の節税となったのです。そしてマル優廃止となったことから貯金は大量流出、足が付かないように一度モノに化けさせ(モノを購入)頃合いを見計らいモノを売却して資金洗浄を行ったというわけです。この場合の「モノ」は価値が下がらず登記等が必要のないもの、たとえば宝飾品や高級車などです。高級車は登録が必要ですが、お金の出し手以外で登録が可能とか・・・?話を戻すと7月の新札の切り替え時に同様のことが起こるのではないかと妄想を膨らませているわけです。なぜなら旧札を大量に金融機関に持ち込めばなぜ?と疑われかねないからです。事実、昨年より少ないとはいえ市中で年を越すお金(お札)が124兆円(企業・家計・金融機関の金庫など)もあるのです。日本は旧札が使えるため時間をかけて表に出すケースもあるでしょうが、古い話で言えばユーロ導入時のイタリアはユーロ導入後、旧札は一定の場所(公的機関等)に持ち込まない限りユーロに替えることはできませんでした。このためイタリアではユーロ導入の前にフェラーリなどの高級車が飛ぶように売れたと言われています。イタリアは映画ゴッドファーザーで有名なマフィアの国ですから・・・。新年初の都市伝説の類いと切捨てるか、それともどこかでプチバブルが発生するのか、宝飾品や高級車など、普段見ない統計にも気を配ろうと考えています。なお、マル優は民間銀行、郵便局、国債(特別マル優)それぞれ300万円、平成6年以降は同350万円の非課税貯蓄が可能でした。

本年も昨年同様、何卒よろしくお願いたします。